

2019年8月 (No.362)

## 主な内容とページ

急落から横ばいだが、先行き不透明 .....	1
大幅な落ち込みから横ばいへ .....	2
史上最大級の落ち込みと今後 .....	2
低調な国内機器生産 .....	4
第2四半期世界主要35社中、赤字は7社うち日系5社 .....	5
米半導体企業、第1四半期と同様に良好な第2四半期結果 .....	9
M&A、制約化でも増加 .....	9
未完成だから成長余地(SRL だより) .....	13

## 急落から横ばいだが、先行き不透明

半導体需要は年初の急落から第2四半期は横ばいと持ち直しの気配をみせた。

1. 半導体の世界需要は第1四半期に急落したが、第2四半期は、横ばいに転じた。しかし、今後については不透明な要因が増加している。
2. 日系半導体企業は、当四半期で主要8社中、ソニーとロームの2社以外は全て赤字。海外同業と比べても今回の落ち込みの打撃をいち早く受けており、回復への対応策が注目される。
3. 懸念されるのは、今後の需要見通しで、米中貿易戦争の影響など悪化材料が増加。加えてメモリ不況が本格化しており、複合的な要因で不況入りする可能性が高まってきた。

## 未完成だから成長余地

『東京は不思議な都市だ。(中略)世界最大級の人口を誇るにもかかわらず未完成だ』\* 2023年完成をめざし「日本一」330 層ビルを中心とする大規模開発が東京の虎ノ門・麻布台で行われることが発表された。かつての私の勤務先がこの地区にあったことから馴染みのある古い街が生まれ変わるのではと想像している。

東京は多くの高層ビルが乱立し、今後の少子高齢化など考えると再開発は一段落かとも思うが、冒頭引用の著者は、“未完成”であることから発展の伸びしろが大きなことを指摘している。もちろん開発に伴い「繁栄」あるいは「衰退」する地域が入れ替わることが起こるといふ。

これは、われわれの半導体の分野でも同じと思う。技術的な限界や制約などから成長の限界が幾度も指摘されてきたが、現実的には AI(人工知能)やクラウド・ネットワークなどの進歩で、計算や記憶用チップの性能は、既存の傾向以上に上昇する気配をみせている。まだまだ未完成の分野で、どこまで発展するか。楽しみだ。

(大竹 修)

\*「東京 上がる街・下がる街」川辺謙一氏、2019年3月 草思社

本誌の内容一覧、索引は、SRL(半導体総合研究所)ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL(半導体総合研究所)の解釈と分析で表現したものです。

2019年 著作権所有 SRL(半導体総合研究所)

### SRL Monthly Report

2019年8月(毎月1回発行)第30巻8号(通巻362号)

発行元:株式会社 SRL  
〒188-0014 東京都西東京市芝久保町 3-1-35  
TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023  
編集・発行人/大竹 修

### SRL Monthly Report

August 2019, No.362

Semicon Research Ltd.  
3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014  
Japan Mail: info@semiconresearch.co.jp  
Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2019

購読料金1年分(12号)98,000円(税別)